

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 68人

② 算数 68人

5 留意事項

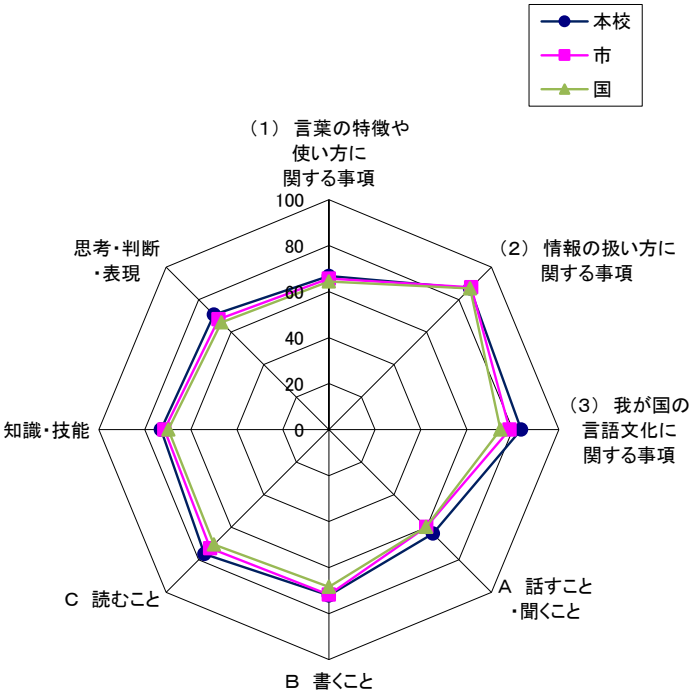
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽東小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	66.8	65.7	64.4
	(2) 情報の扱い方にに関する事項	86.9	87.6	86.9
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	83.6	78.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	63.9	59.9	59.8
	B 書くこと	72.1	71.8	68.4
	C 読むこと	76.5	72.9	70.7
観点	知識・技能	73.0	71.5	69.8
	思考・判断・表現	70.7	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

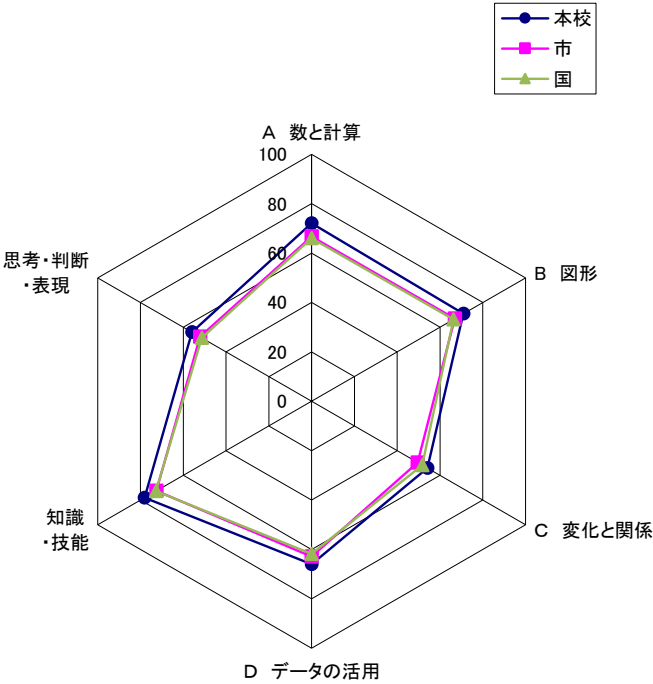
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	○平均正答率は、市や国の平均を若干上回った。 ○送り仮名のついた漢字を文の中で正しく書く問題の平均正答率は82%であり、よくできている。 ●話し言葉においては、一文が長くなると伝わりづらいという特徴に着目する問題で、意図が捉えられなかった児童の割合が国よりも5ポイント程度高かった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字や熟語については、引き続きプリントやドリルなどを用いた繰り返し学習を行うとともに、文章を書く際にはできるだけ既習漢字を使うよう促すなどして習熟を図る。 ・発表や交流で、相手の反応を見ながら分かりやすく話す機会を増やし、言葉の順序や長さに注意して話すことができるようにしていく。
(2) 情報の扱い方にに関する事項	○平均正答率は、市や国の平均と同程度である。 ○メモの書き表し方の説明を問われた問題の正答率は86.9%でよくできているが、図の形だけに目が向き、情報と情報の関係を捉えられなかった児童が12%以上見られた。	・複数の情報の関係を理解し、目的に応じた文章を書く力を伸ばすために、短文を読んで要約したり、キーワードを抜き出したりと、的確に話題を捉えて表現する活動を取り入れていく。 ・国語以外の教科においても、資料から分かることを書き出したりまとめたりする活動を、今後も取り入れて指導していく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○平均正答率は、市や国の正答率よりも5ポイント以上高く、よくできている。 ○読書が自分の考えを広げることに関与することに気付くことができた児童が多かった。	・学校図書館と連携し、身近に本がある環境を整えるとともに、調べ学習等にも継続的に図書資料を使用していき、今後とも読書に親しむ機会を増やしていく。
A 話すこと・聞くこと	○平均正答率は、市や国の平均より4ポイント以上高かった。 ○どのように伝え合う内容を整理したかを問われた問題では、国の平均正答率よりも8ポイント高く、要点を整理して伝える力の向上が見られる。 ●話し方の工夫を選択する問題では、国よりも誤答率が6.7ポイント高く、交流の発言に立ち返らず、設問のみで選択している様子が伺える。	・引き続きICT機器やホワイトボード等を用いた意見交換の場を積極的に設けていく。その際、相手の意見をよく聞き、発言を受けて考えを交流できるように形式を工夫していく。
B 書くこと	○平均正答率は、市や国の平均を若干上回った。 ○目的や意図に応じて伝えたいことを明確にする方法を選択する問題の正答率は88.5%であり、よくできている。 ●目的や意図に応じて自分の考えを書き表す問題の正答率は50.8%であった。読み取ったことを整理して表現することはできるが、自分の考えを表すことには課題が見られた。	・自分の考えをもち、表現する活動を、教科横断的に様々な場面で繰り返し行っていくことで、「考えて書く」力を更に高めていく。
C 読むこと	○平均正答率は、市や国の平均を上回った。 ○物語を読んだ後の話合いの様子から友達が何に着目していたのかを選択する問題の正答率は、国の平均を9ポイント以上上回った。 ●読んで心に残ったところを表現する問題では、自分の考えを表現できていない児童が多く見られた。	・物語文では、文章をよく読み、叙述をもとにした読み取りを継続して指導していく。 ・国語の時間以外にも、グループや全体で意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる場を積極的に設けるようにする。

宇都宮市立陽東小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	72.1	66.7	66.0
	B 図形	70.9	66.9	66.3
	C 測定			
	C 変化と関係	54.1	49.6	51.7
	D データの活用	66.0	62.9	61.8
観点	知識・技能	78.1	72.6	72.8
	思考・判断・表現	56.0	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○平均正答率は、国の平均を上回っているものが多く、無回答の児童はいなかった。 ○計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述する問題では、国の平均を18.5ポイント上回った。 ●問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる問題では、国の平均を3.5ポイント上回っているが、正答率が65.6%と低かった。	・導入で具体物を取り上げたり、問題を図で表したりして視覚的な理解を促す。 ・文章題の立式では、よく問題を読んだり、図や数直線、帯に表したりすることなどを習慣づけ、四則のミス減らす。 ・問題解決の方法について言葉で説明させる機会を意図的に増やすことで、言語化する能力の向上を図る。
B 図形	○平均正答率は、国の平均をすべて上回った。 ○直方体の見取り図について理解し、かくことができるかどうかをみる問題では、国の正答率を6.3ポイント上回った。 ○●球の直径の長さや立方体の辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる問題では、全国の正答率を9.4ポイント上回ったものの、正答率は45.9%と低く、無解答率も13.1%であった。	・問題文をよく読み、どんな情報があり、何を聞かれているのかを確かめるよう指導をする。 ・3年生で学習した「円と球」の学習内容を振り返らせる。直径や半径の意味については、具体物を用いて視覚的に想起させ、実際に問題に取り組む際にイメージしやすくなるよう指導する。
C 変化と関係	○平均正答率は、国の平均を上回っているものが多かった。 ○●道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題の正答率は、国の平均を1.8ポイント上回っているが、正答率は32.8ポイントと低かった。 ○●速さの意味について理解しているかどうかをみる問題の正答率は、国の平均を8.2ポイント上回っているが、無解答率は6.6ポイントと高かった。 ●速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる問題では、国の平均を2.8ポイント下回った。	・自分の考えに対する根拠を論理的に考えて説明できるよう、日頃の授業から言葉で表現する場面を設ける。 ・速さの概念に関する学習は、基礎問題を繰り返し解くなどして基礎基本を定着させるとともに、その事象について正しい単位を使って説明する機会を意図的に設ける。
D データの活用	○平均正答率は国の平均を上回っているものが多かった。 ○円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができるかどうかをみる問題では、国の平均を6.1ポイント上回った。 ○●折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる問題では、国の平均を6.8ポイント上回っているが、無解答率が13.1%と高かった。 ●示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるか判断する問題では、国の平均を1.8ポイント下回った。	・グラフや表を読み取る学習だけでなく、読み取った内容を言語化できるように、話し合い活動や根拠を基に説明し合う活動を意識的に行う。 ・社会科や総合的な学習の時間などの授業内でもデータの活用を意識した授業を行うことで、教科横断的に学習をより深めていく。

宇都宮市立陽東小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの
○質問5「普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。(1時間以上、2時間より少ない31.8%、1時間より少ない16.7%、全くしない13.6%)」、質問6「普段、1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴をしますか(1時間以上2時間より少ない18.2%、30分以上1時間より少ない12.1%、30分より少ない19.7%、携帯電話やスマートフォンを持っていない31.8%)」では、いずれも全国平均より短い時間の利用に留まっている。インターネット等の使い方や規則正しい生活について引き続き重点的に指導していきたい。

○質問17「自分と違う意見について考えるのは楽しいですか。(本校肯定的回答78.8%)」質問33「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。(本校肯定的回答92.4%)」、質問39「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。(本校肯定的回答89.4%)」では、いずれも全国平均を上回っている。グループ活動などを通して友達と協力し合いながら学習に取り組んだり、学校生活を送ったりしていることが分かる。今後も、学習活動や学級活動などにおいて、友達と関わりながら取り組む活動を取り入れていきたい。

○質問41「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話合ったりする活動に取り組んでいますか。(本校肯定的回答96.9%)」では、全国平均を上回っている。話し合い活動を通して、毎時間扱う道徳的価値について多面的・多角的に考えていることが分かる。今後も資料について考えたり、自分を振り返ったりする時間を十分に確保して話し合いに臨ませることで、道徳的価値を深められるようにしたい。

○質問43「国語の勉強は大切だと思いますか。(本校肯定的回答96.9%)」、質問43「国語の授業はよく分かりますか。(本校肯定的回答94%)」、質問51「算数の勉強は大切だと思いますか。(本校肯定的回答98.4%)」、質問52「算数の授業の内容はよく分かりますか。(本校肯定的回答84.8%)」、質問61「英語の勉強はよく分かりますか。(本校肯定的回答94.9%)」では、いずれも全国平均を上回っている。学習の大切さを理解しつつ、学習に真面目に取り組んでいる様子が分かる。今後も、高い学習意欲を維持できるように努めていきたい。

●質問11「将来の夢をもっていますか。(本校肯定的回答78.8%)」では、全国の平均を下回っている。総合的な学習の時間「夢に向かって」などの機会を生かして、将来の夢を具体的にもてるように支援していきたい。

●質問14「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。(本校肯定的回答65.1%)」では、全国平均を下回っている。教育相談やいじめに関するアンケート、宮っ子ダイアリーなどを通して、悩みや不安の早期発見に努めるなど、児童一人一人に応じた指導や支援を充実させていきたい。

宇都宮市立陽東小学校 (第6学年)
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・ペア学習やグループ学習を中心とした学び合い。	・様々な授業の中で、ペア学習やグループ学習での学び合いの場を意図的に設定する。	・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。」については、いずれも全国平均を上回っていた。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・算数の「図形」や「データの活用」で、読み取った内容を言語化して表現する問題の無解答率が高かった。	・自分の考えをまとめ、伝える言語活動の充実。	・算数に関わらず、日頃から自分の考えを文章でまとめる活動を、多く取り入れる。 ・自分自身の考えをもち、話し合う場を意識的に設定する。